

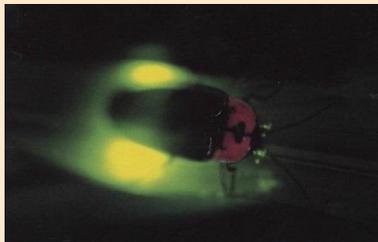
# 地域と繋がることを意識しての推進員活動を通して ～活動の効果を感じて意欲へ～

鹿児島県薩摩郡さつま町  
さつま町地域包括支援センター(委託)  
下口 和郎(地域支援推進員)

人口	21,911人	65歳以上人口	8,493人
高齢化率	38.8%	第6期介護保険費	5,900円
要介護認定者数	1,785人	要介護認定率	20.9%
日常生活圏域	1圏域	包括数	センター:1ヶ所 ブランチ:4ヶ所

認知症地域支援推進員数 : 5名

さつま町は、鹿児島県北西部・北薩地域の中心部に位置し、町の北部には標高1,067mの紫尾山(しびざん)があり、ここから分岐する山々に囲まれた緑豊かな町です。また、町のほぼ中心を南九州一の大川である川内川(せんだいがわ)が貫流しており、田園や緑豊かな森林、小川のせせらぎや温泉など自然いっぱいの町です。



(平成29年3月31日現在。要介護認定者数・認定率は平成29年1月末現在)



# さつま町における認知症施策の全体像

さつま町認知症地域支援推進計画に加筆修正(平成29年度)

柱	取り組み内容
1. 地域や関係機関との連携(地域支援体制づくり)・認知症ケア力の向上	<ul style="list-style-type: none"><li>①認知症疾患医療センターとの連携および会議への参加</li><li>②介護従事者等との連携およびケア向上を目的とした研修の開催</li><li>③地域診断や地域課題や地域資源の発見・開発(地域ケア会議等を通じた地域との関係づくり)</li><li>④認知症ケアパスの作成・内容更新</li></ul>
2. 啓発・理解促進	<ul style="list-style-type: none"><li>①認知症サポーター養成講座</li><li>②キャラバンメイトとの連携および研修会開催</li><li>③普及啓発・広報活動</li><li>④認知症フォーラムの開催</li></ul>
3. 地域の見守り、協力者拡充	<ul style="list-style-type: none"><li>①認知症サポーター養成マップ作成</li><li>②ロバ隊長ステッカーいっぱい町運動</li><li>③見守りSOSネットワーク構築</li><li>④オレンジリーダー養成</li></ul>
4. 早期発見・予防	<ul style="list-style-type: none"><li>①出前講座</li><li>②脳のすこやか塾</li><li>③地域支援モデル事業</li><li>④認知症予防教室の開催、インストラクター養成</li><li>⑤認知症初期集中支援</li></ul>
5. 本人および家族への支援	<ul style="list-style-type: none"><li>①家族介護者支援</li><li>②認知症カフェ</li></ul>

## さつま町における推進員の役割

1. 「人ごと」～「自分ごと」へと変化するための働きかけ
2. 地域診断や地域課題の掘り起し・資源開発
3. 医療介護の連携と認知症ケア向上への取り組み
4. 協力者の養成とその後のフォローアップ
5. 認知症本人とその家族に対する支援
6. 認知症予防への取り組み、早期発見、早期支援



**「我が事、まるごと、地域共生社会の実現へ」**

# 地域支援体制づくりへ向けた推進員活動

## 【活動開始の背景・きっかけ】

推進員一年目、平成24年のできごと。  
施設から自宅復帰を検討している人についての地域ケア会議を公民館で開催。

### 【地域の反応】

「これ以上、地域に何をしろというのか!!。施設でも手を焼いているような人を地域で見えていけと言うのか!!」など大反対の声が...



### 【住民の本音】

顔も知らない包括職員に夕方、公民館に集められ、いきなり認知症の人が地域に帰ってくるから地域も協力して欲しいと言われても...



### 【反省と気づき】

- ①在宅復帰の相談が来た時点から話し合いに地域の方にも参加してもらい本人の想いや課題等を共有すべきであった。
- ②地域支援体制を構築するためには、地域の方と推進員の信頼関係・顔の見える関係ができていることが大前提。

**地域に出向くことを意識して推進員活動をやっつけていこう!!**

# 地域での活動：「認知症サポーター養成講座」

認知症サポーター養成講座を受講した中学生が文化祭で啓発活動！！

認知症の方の「できないこと」ではなく「できること」に着目しながら、グループワークで地域で出来ることを考えます。



寸劇で啓発活動をしたいとうれしい相談がきました。  
寸劇のシナリオ作りなど包括が協力。



年に20回程開催するサポーター養成講座の90%以上は講座開講依頼がきて地域や学校、警察署、郵便局などに出向いておこなう出前講座形式。地域に出向くと地域の強みや弱み、課題等も見えてくる。地域の世話焼きさんや発言力を持つ人など地域支援の協力者が見つかることも！！

## 地域での活動：「地域ケア会議」

気持ちを理解し寄り添うための地域ケア会議。地域が主体的に居場所作り！！

本人の生活歴などから、本人の行動や気持ちを紐解いていく。地域にはすごい情報がいっぱい。



以前、自宅前の歩道にベンチがあり座って道路を眺めるのが日課だった。本人の居場所が無くなり、不安になり落ち着きがなくなったのでは？と意見が。住民手作りのベンチが設置されました。



地域の支援が必要なケースに関してはできる限り地域に出向き、地域の自治会長や民生委員さんにも加わっていただき地域ケア会議を開催。地域しか知らない情報であったり思わぬ協力体制が得られることが多い。私たちが思う以上に地域は力を持っている。

# 地域での活動:「認知症予防ウォーキング教室」

アンケート意見に多い「認知症予防」を入り口として、認知症の理解へ

興味のある部分から参加していただき認知症への理解へと結びつける。また新たなコミュニティが自然とできあがる。90歳代、独居の参加者への見守り活動が始まる。



3カ月の教室終了後、認知症カフェのボランティアとして参加していただけるようになり、特技を活かしてロバ隊長ストラップ作成のお手伝い。キッズサポーター養成講座等で配布している。



まずは、住民が関心を持っている予防という部分からアプローチをしてみた。3カ月の教室終了の頃になると参加者間で「私が認知症になってもウォーキングに誘ってね!!」といった会話が聞かれるようになる。予防を目的とした事業であったが、自然と地域支援体制づくりに繋がっていた。そして認知症カフェの協力者としても活躍されるという思わぬ成果が!!。

## 活動にあたり工夫(心がけた)した点

- 計画作成の段階から地域に出向く活動を意識的に
- 地域ケア会議など地域の会議に積極的に参加
- 事業実施後に地域の変化を確認
- 活動内容や取組を広めるためメディアの活用
- 活動への協力者の養成と同時に協力者への労い
- 他の認知症に関する事業所との連携や協力体制
- 計画から評価までのサイクルを意識

## 推進員としての活動の課題

- 市町村への報告や情報共有、意識・目標の共有化
- さらなる地域との信頼関係の構築
- 業務量増に対するマンパワー不足の解消 などなど

## 今後の活動・取組の方向性

- 役場職員や住民と一緒に活動に取組み連帯感を感じながら事業実施
- 地域に出向くことを意識し、地域づくりを住民と一緒にしきたいという熱意を地域に伝染させる
- 協力者養成の継続とフォローアップ

## 推進員さんたちへメッセージ

一人で事業や活動を抱え込まないで、ネットワークを広げ、協力者と繋がりチームとして取組んでいきましょう。

皆さんの周りには「同じ熱い思いをもつ協力者」が必ずいます！！

私たちも、そんな熱い思いをもつ仲間です！！  
無理のない活動から取組んでいきましょう。



オレンジリーダーさんへ感謝を込めて

「オレンジ・コンサート♪」

—TOSHIKAZU MARUNO—





2017/07/24

「清聴ありがとうございました。」